



## 市民の知恵と情熱で佐渡市創生を

佐渡市議会議長 根岸 勇雄

新年あけましておめでとう、ございます。

市民の皆様におかれましては、今年こそはと夢と希望を託して新春を迎えられたことと存じます。

昨年、佐渡市の人口はついに6万人を切り、往時から半減してしまいました。

日本は既に人口減少社会に入っており、特に、地方における減少は大きいものがあります。今の状態が続くと、2040年には、全国の49.8%、896の自治体が消滅する可能性があると試算もなされています。

そこで国は、人口減少に歯止めをかけ、東京圏への過度の人口集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保し、活力ある社会を維持するための施策を実施するために「まち・ひと・しごと創生法」を昨年11月に成立させました。

地方創生は、今始まったことではなく、早くから辺地、過疎、離島、山村、農村工業等の法制化を図ってきたところ です。竹下政権における「ふるさと創生」の1億円には全国自治体において、地方自治の新領域として、自主自立を目標に一村一品地域おこし、第三セクター等のあらゆる手法で活性化に取り組んでまいりました。

しかしながらこのような取組にもかかわらず、人口は都市へ集中し続け、今や地方は消滅の危機にさらされています。日本経済の工業化・グローバル化とともに、地方の主要な第一次産業が国民総生産の1%台に激減し、加えて規制改革による市場経済の波にさらされ、地場産業が成り立たなくなっていることに要因があるように思われます。

一方で、子育てや高齢化社会、自然災害への対応や豊かな自然、地域の人たちとの交流・ふれあい、地域貢献活動等の視点から、都会に住む人々で地方の田舎に住みたいという人の割合が高まっているとも聞いております。

新たな地方創生が始動するこの年、地方がどのように主体的にかかわれるかが問われることとなります。市民と行政と議会も共々、建前論ではなく具体的な一歩が求められています。

地方創生に対し、市民の皆様の意見をどしどしお寄せください。皆様の知恵と情熱を結集し、一緒になって佐渡市を未来の子供たちに託す灯りを見つけていこうではありませんか。

最後になりましたが、この新たな年が市民の皆様にとって健やかで希望の持てる年となりますように心から念願し、年頭の挨拶とさせていただきます。

